

長野県革新懇ニュース

2017年12月号
発行日 12月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 0510-3-15971



発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 若麻績敏隆さんインタビュー
- 2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
- 3面 大北森林組合等補助金不正で提訴
「ストップ!9条改憲 信州市民アクション」結成
- 4面 随筆「与謝野晶子の願い」堀井正子さん
「昭和の歌姫 美空ひばりの生涯と反戦歌」高橋 敏郎さん
各地の動き・読者のこえ、漢字クロスワードパズル

長野県革新懇

検索



1958年長野市に生まれ。1982年東京藝術大学美術学部絵画
科日本画専攻卒業、1984年同大学院美術研究科修士課程修了、
1987年大正大学大学院仏教学コース修士課程修了。
1994年善光寺白蓮坊住職に晋山。
2012年～14年善光寺寺務総長。現在、善光寺白蓮坊住職。
日本橋三越本店、大丸東京店、青山新生堂などでパステル画に
よる個展多数。

人間のエゴを認識しない限り

同じ過ちを繰り返す

わか おみ びんりゅう
若麻績 敏隆 さん

(善光寺白蓮坊住職)

すべては繋がっている

Q 本日はありがとうございます。早速ですが、まずは人間と宗教のかかわりについてお聞かせ下さい。

一般的な日本人の宗教についての捉え方としては、仏教とかキリスト教、あるいはイスラム教、さらにそれぞれの宗派の枠組みがあると思いがちですが、私はそういう枠組みに捉われず宗教を考えたと思っています。本来平和を指すべき宗教がその名のもとに多くの殺戮を繰り返してきた歴史があるものだから、そもそも宗教とは何なのかというのを常に考えてきました。私にとって、仏教は、宗教の本質を考える上ではもつともふさわしい宗教です。お

釈迦様が一番仰りたかったことは、人間の自我、現代的に言えばエゴの問題であり、それが仏教の教えの根幹です。お釈迦様がお悟りを開いたのは35歳の時ですが、お悟りになられた時、そのお悟りの内容は常人には理解しがたいと思ひ、瞑想したまま涅槃に入つて(死んで)しまおうとされました。ところが、梵天というインドの神様が天から降りてきて、「どうかあなたの悟られた内容を人々に説いて下さい」と言われます(梵天勧誘)。お釈迦様ははじめはお断りになりましたが、その時に梵天が仰つた内容が非常に印象深いもので、「あなたの教えは難解だけれど、それを理解する人が僅かでもいるに違いないから、どうぞ教えを説いて下さい。そうでないとこの世界は滅びてしまうでしょう」というものでした。

日本人の宗教観は本来、自然を崇めた

Q 私たちの宗教観は非常に形式的、表層的で、お話の内容についてはなかなか考える機会がないのですが、その点についてはいかがでしょうか。

日本の本来的な宗教は神道ですが、ご存じのように神道は天地自然を崇める宗教です。神道の考え方と仏教の宇宙観は非常に親和的です。日本の文化や精神性を語る時に、私たちは、日本には神道や仏教の伝統があるので、西欧のような人間中心主義ではなく、自然に重きを置き、自然を崇める文化だということを言ってきました。

今風に考えると、梵天の危惧は、人間が自我にまかせて思う儘にしたら早晩この世界は滅んでしまうというよきな意味だと思えます。この懇願を受けてお釈迦様は教えを説く決意をされました。今日、人類が人類を何度も滅ぼせるほどの核兵器を手にしてしまつた現実を思うと、人類の自我の問題はますます重要な課題になってきている気がします。

仏教では、自我を超越したところに見えてくる真理を「法(ダルマ)」といい、それを認識することを「智慧」といいます。「法」とは言い換えば、私たちが生かしている大いなるいのちの全体性ともいえます。そのいのちの世界ですべてのいのちは繋がっており平等です。平等の

発を売るといふ発想には行き着かないと思うんですね。

善光寺信仰の重要な特徴は寛容性

Q ところで、善光寺は私たちにとって大変身近なお寺ですが、意外と知らないことがあると思ひますので、ご紹介をお願いします。

善光寺は特定の宗派に属するお寺ではなく、仏教伝来時に百済から日本に最初に伝わつた仏像とされるご本尊に對する信仰ですので、宗派に関わりなく多くの方にお参りいただいています。善光寺のご本尊とご縁を結ぶと誰でも必ず極楽にお迎えいただけるという信仰が、平安時代後期から全国に広がりました。

現在では天台宗と浄土宗という2つの宗派によって護持されていますが、それぞれの宗派のトップのご住職が、共に善光寺住職を名乗っておられます。男性と女性の聖職者がトップに並び立つという寺院は世界を見ましても例がないと思ひます。寛容性が善光寺信仰の重要な特徴ですが、特に女性に對しても平等に救いをもたらして下さる仏さまという点で広く信仰を集めてきました。

日の善光寺信仰の礎をつつたのです。

本質的に仏教の教えはすべて「方便」

Q どんな宗派の人でも関係なく受け入れるという世界観はどこからきているのでしょうか。

本来、仏教の教えはお釈迦様のお悟りにルーツをもつものですが、それが後の宗派になると教えの説き方に違いが出てきます。仏教では長い歴史の中で膨大な経典が編まれましたが、その表現はそれぞれ異なっており、天台宗ならば『法華経』によって立つ、浄土宗ならば『無量寿経』などの浄土経典によって立つということがあって、それによって教義や修行の方法が異なつてきます。禅宗だとひたすら座つて悟りを求める、ところが浄土宗や浄土真宗ではこの世では悟りを開きにくいので、先ず極楽に往生してから悟りを開きましようというように説き方に違いが出てくるわけです。

私が仏教の勉強を始めた頃に印象深い言葉に触れました。仏教には様々な経典があるけれど、言葉には必ず誤謬(間違い)が含まれるというのが基本的立場だということです。キリスト教の考え方も、聖書には誤謬がない、すべてが神の啓示なので間違ひはないと考えますが、仏教では、真理は本来、不可説(説くことが出来ない)と考えるので、それをあえて説くこと

【2面に続く】